

若者にみられる mRNA ワクチン接種後の心筋炎

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の mRNA ワクチン接種による副反応として、とくに若者に心筋炎が稀に発生することが知られている。

米国疾病予防管理センター（CDC）によると、心筋炎および心膜炎の発生率は、12～39 歳における mRNA ワクチンの 2 回目接種 100 万回あたりおよそ 12.6 例である。心筋炎を発症した患者では、全例で mRNA ワクチン 2 回目接種の数日後に胸痛がみられ、心筋トロポニンレベルが上昇した。心電図には異常所見がみられ、ほとんどの患者に ST 上昇が確認された。また、心臓の MRI では全ての患者に心筋炎の所見がみられた。患者に新型コロナウイルスやその他のウイルスの感染はなかった。心筋炎発生のメカニズムは明らかにはなっていないが、新型コロナウイルスのスパイクタンパクと自己抗原の分子に類似性があることや mRNA に対する免疫応答、免疫系の活性化、無調節のサイトカインの発現などが考えられている。男性に心筋炎発生が多い理由については不明であるが、性ホルモンによる免疫反応の違いや、女性において心疾患の過小診断がある可能性が考えられる。心筋炎を発症した全ての患者の症状は改善し、心筋トロポニンレベルも心電図も所見に改善がみられた。

新型コロナウイルス感染症ワクチンのリスク便益評価としては、稀な副反応に心筋炎があるものの、全ての年齢層の男女に優れた結果が得られている。したがって、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種は 12 歳以上の全ての人に推奨される。

出典：Circulation. 2021; 144(6): 471-484.